



1

- 成熟児仮死、視床(VL核)・被殻・(中心溝近傍病変)
- 安静時は不随意運動なし

➢ 回旋ハイハイ (アテトーゼに特徴的)

➢ 肩水平内転の困難

・ 振戦

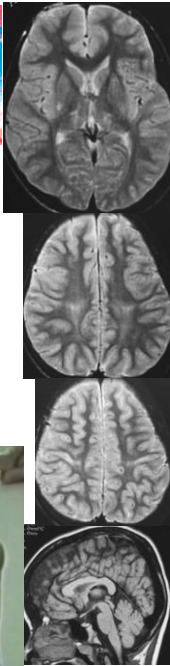
・ 反抗
- 体幹偏位 (側屈・回旋・前屈) で代償

➢ “肩のひけ”の連合運動

➢ 肘固定の上肢運動

➢ 肩回旋による前方到達運動

Athetosis代表例



左が悪い



5y2m



7y5m

2



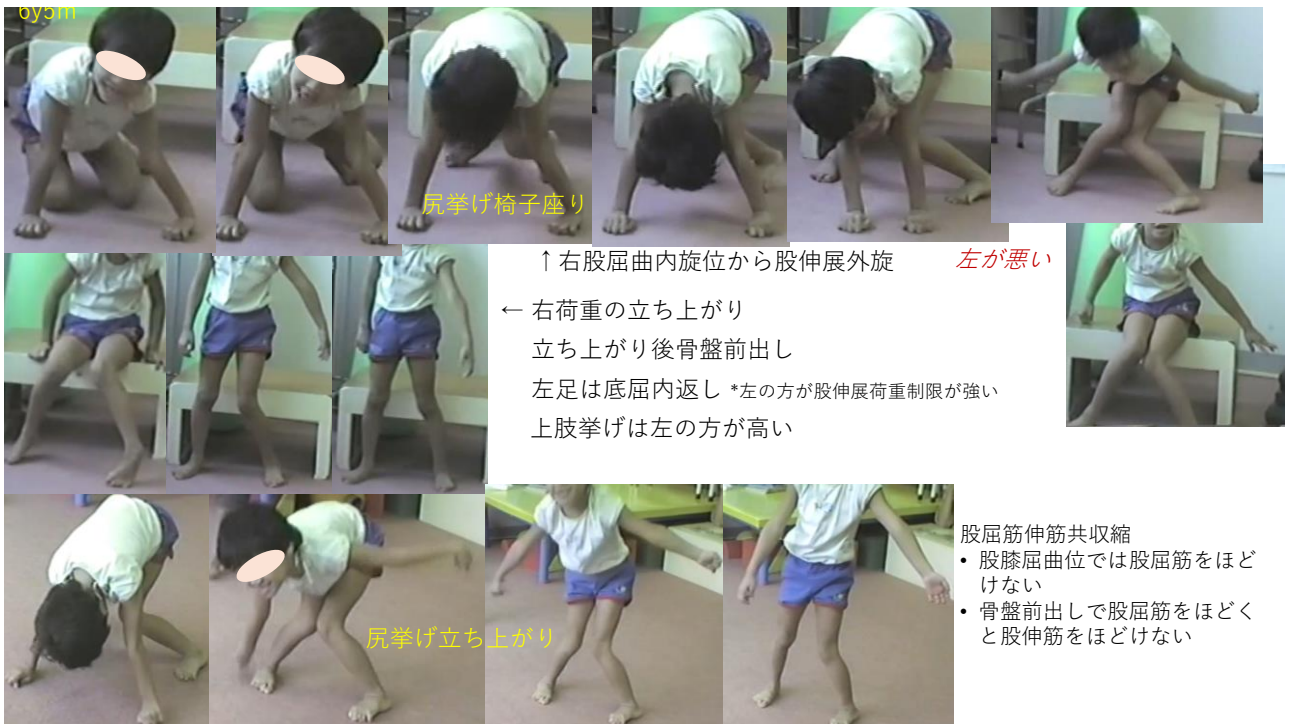
1y1m

・満期 HIE ・独歩 2y6m ・IDなし

右が悪い 1y0m



3



4



- 股膝屈曲位の膝を支点として、小範囲の股伸展と大範囲の股外旋を行う } 縮こまった状態から跳ね上がる
- 体幹伸展・回旋(荷重側へ)・側屈(荷重側凸)を同時に行う
- 前外側に手を置き、肘伸展ロックした状態で、手を内後側にひく [肩内転・屈曲] 手を振り降ろす動き
- ・ 荷重時股最大伸展は右の方がいい ・ 回旋角は右向きの方が大きい

5

股屈曲位のまま股外旋・伸展し、体幹回旋を伴う  
股伸展程度は右の方がいい  
回旋ハイハイと同じ下肢体幹運動

膝歩き



6





右が悪い

- 股屈曲域のままで体幹前傾  
\* 足踏み状態で前進わずか
- 股伸展は左の方がいい。  
膝反張も左の方が強い
- 体幹は回旋・側屈で推進する
- 手は後側方に伸ばしバランスをとる

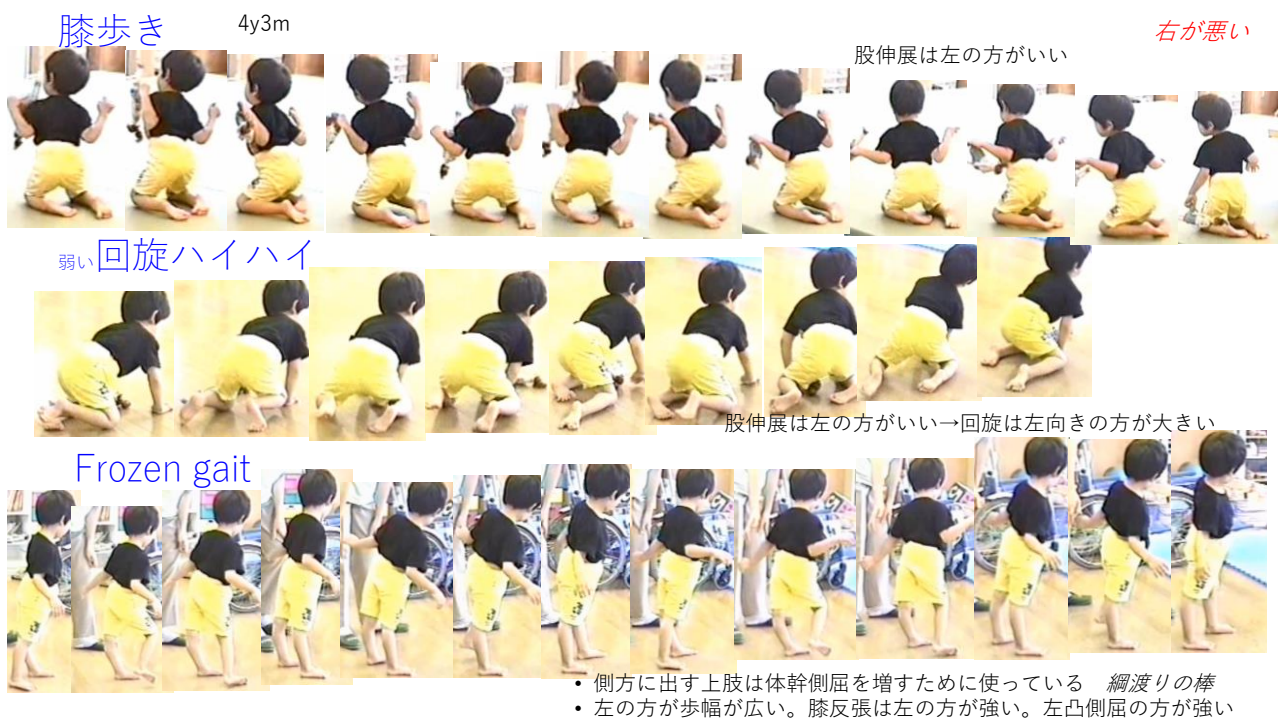
股屈筋も伸筋もほどけない



7



8



9



10





11



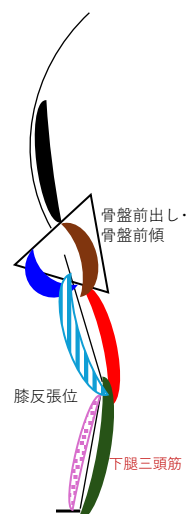
- ・ 立脚肢は股伸展域まで行かず、立脚初期に骨盤前出し、膝は反張する。足底屈し、伸び上がって推進する
  - \* 足底屈と膝反張の主動筋は下腿三頭筋である
  - \* 膝反張となれば、hamstringは股伸展に働き、遊脚開始の股屈曲に抵抗する 強い股屈筋は立脚期の股伸展に抵抗するが
- ・ 体幹前傾し、体幹回旋、骨盤前出しを使う
- ・ 上肢は側方挙上

股屈筋をほどくため股伸筋・足底屈筋が過収縮し、ほどけない状態となる

12



立脚肢は股伸展域まで行かず、立脚初期に骨盤前出し、膝は反張する。足底屈し、伸び上がって推進する



13



14



12y10m



15

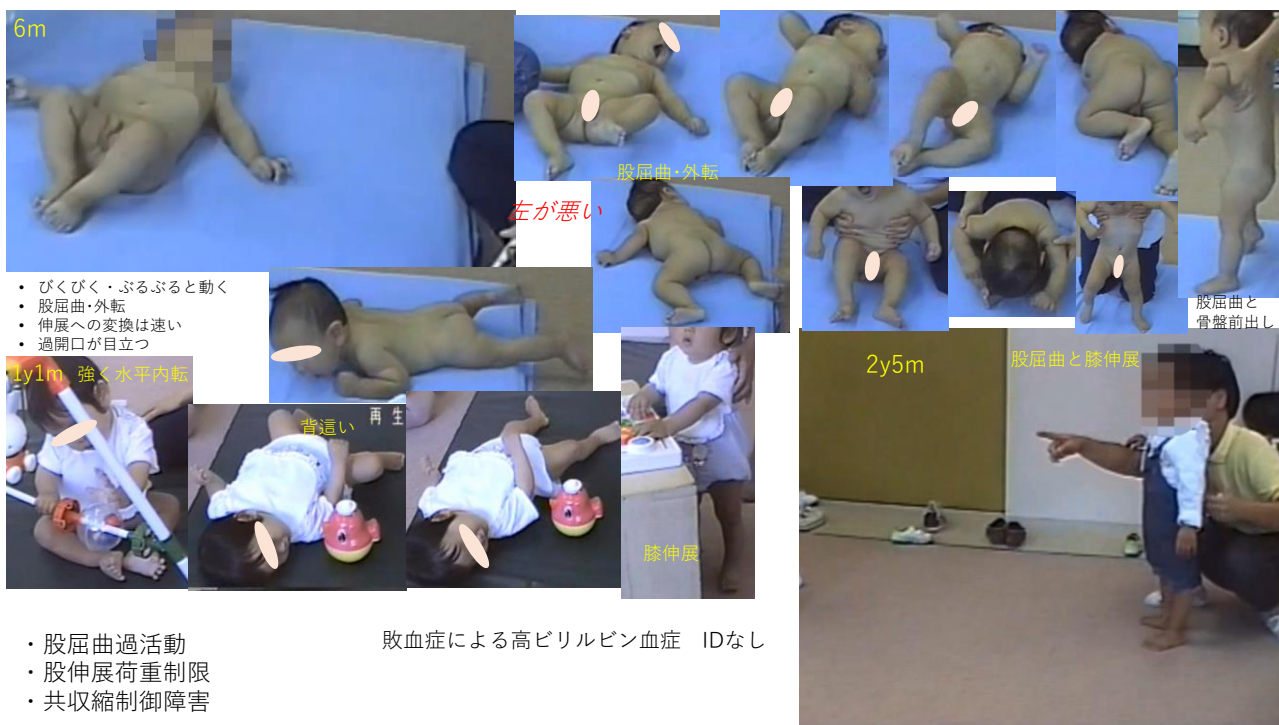


右：股伸展域にいかず、屈曲もわずか 膝の屈曲もわずか 股屈筋・伸筋とも持続過収縮状態  
左：股屈曲はそれなりにできるが、股伸展域にはいかず 膝の屈伸はできる 股伸筋の持続過収縮は弱い

体幹前傾・頸後屈は、股屈曲に対応して固まる

16

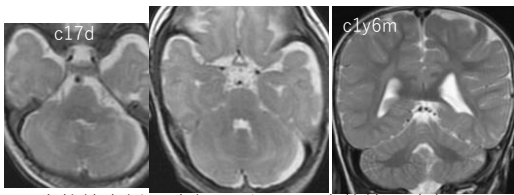




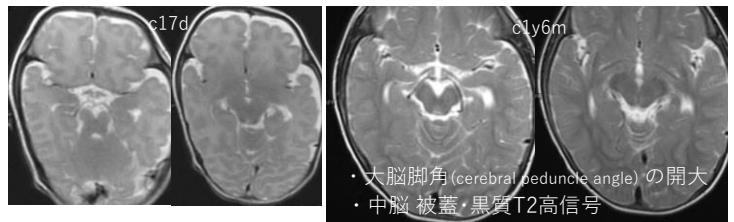
17



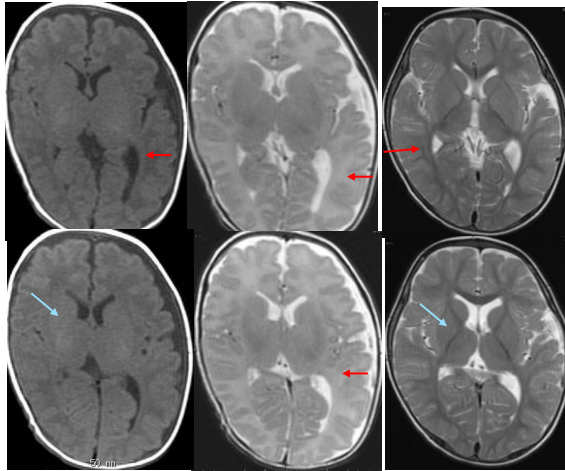
18



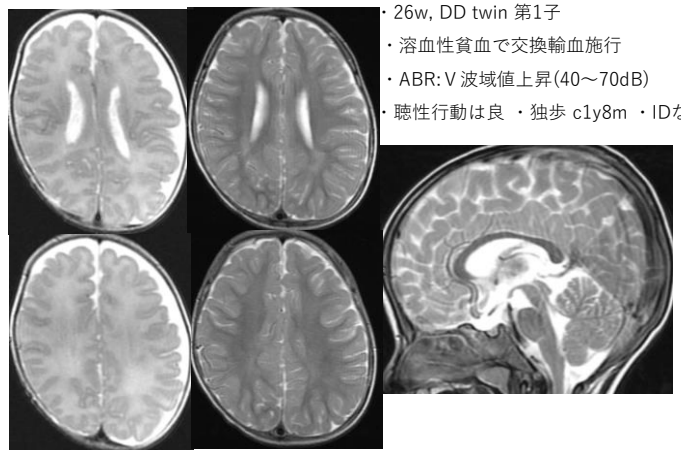
歯状核内側T2高信号がない→歯状核T2高信号



・大脳脚角(cerebral peduncle angle)の開大  
・中脳被蓋・黒質T2高信号



右淡蒼球T1高信号→右淡蒼球のT2極弱高信号と内側部萎縮



・26w, DD twin 第1子  
・溶血性貧血で交換輸血施行  
・ABR: V 波域値上昇(40~70dB)  
・聴性行動は良・独歩 c1y8m・IDなし

19



20





- ・股屈曲・外転 左>右
- ・左足底屈
- ・手の前出しはほぼ良し



- 股屈曲過活動 左>右
- 股伸展荷重制限

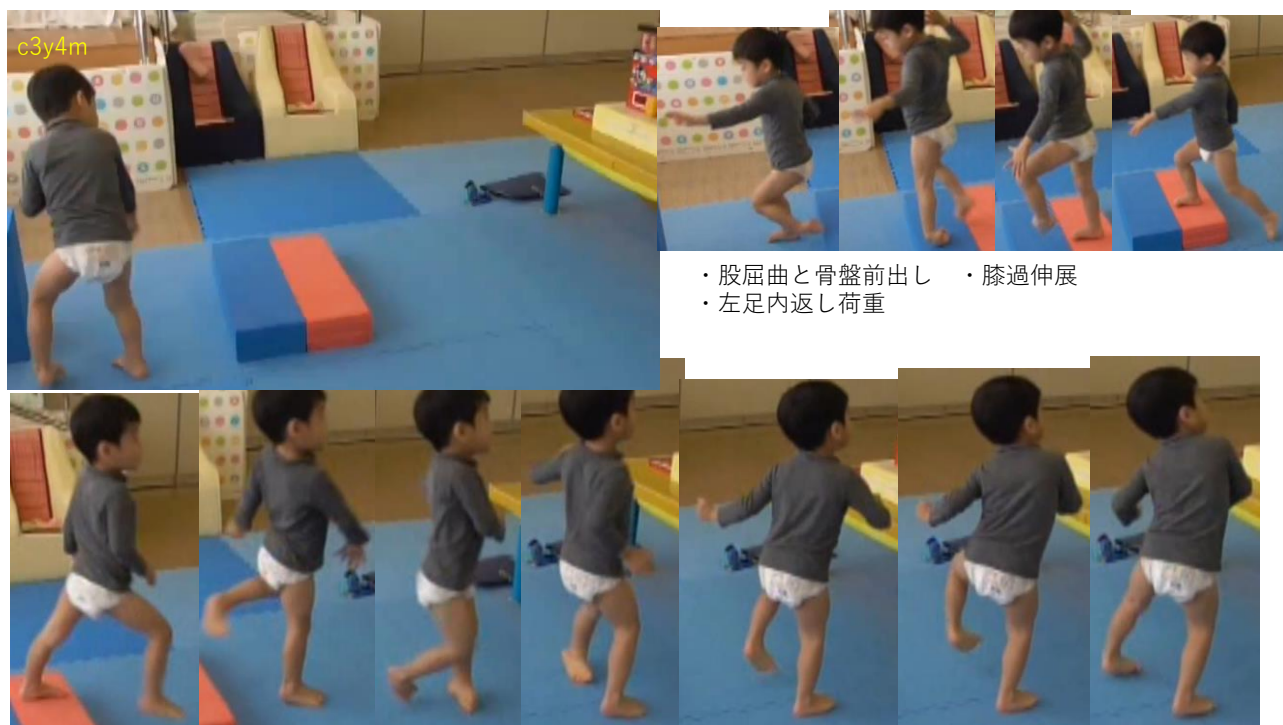


21



- ・股屈強い・腰椎前弯
- ・立脚時の膝反張 左>右
- ・右の踏みしめ
- ・凹足 左>右
- ・肩の引け

22



23



- ・股屈曲と骨盤前出し
- ・膝過伸展
- ・左足内返し荷重

股屈曲過活動  
股伸展荷重制限  
共収縮制御障害

上肢はいい

左下肢の伸展優位の共収縮は足底屈内反となる

24